

二〇一九(平成三十一)年度 金沢学院短期大学 入学試験問題

一般入試Ⅰ期〈一日目〉

二〇一九年一月三十日(水)実施

国語

I 注意事項

解答用紙に「国語」と記入・マークしてから解答してください。

問題は1ページから14ページまであります。

問題は持ち帰ってもよいですが、コピーして配布・使用するのには法律で禁じられています。

II 解答上の注意

解答用紙は、マークシート用紙と記述用解答用紙の2種類があります。

マーク式の問題で、「解答番号は10」と表示のある問いに対して④と解答する場合は、下記の例のようにマークして

ください。記述式の問題には「解答は記述用解答用紙」と表示がありますので、記述用の解答用紙に記入してください。

(例)

解答番号	解 答 欄
10	① ② ③ ● ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

問題は次のページからです。

世阿弥が一子相伝としていた考え方の一つに、「離見の見」がある。61歳のときに著した『花鏡』に出てくる言葉だが、『風姿花伝』にその萌芽を読み取ることができる。

離見の見とは、役者が能を舞っている最中は、舞っている自分を冷静に見る別の自分が必要であり、能舞台すべてを一望するような別の認識主体が大切だ、ということである。それは観客の目でもある。舞っている最中の能役者を外部の視点で眺め、その観察結果を自分の舞にフィードバックさせることが重要なのだ。

これを現代心理学では「メタ認知」と言う。行動している自分を他人のように観察するもう一人の別の存在のことである。いわば自分の頭の上方に「心の眼」を据えて、この眼によって自分自身を客観的に見つめる作業を絶えず行うということである。この考え方は、すべての知的生産で重要だ。本書には、能のみならず人間の行動観察に関するエッセンスが集約されている。

世阿弥は、学んで身に付けた内容を、どのように世間へ披露すればよいかについても、親身になって教えてくれる。

能の観客に対していかにアピールし、人気を博すかを考察すると同時に、よい評判を維持するにはどうすればよいかを、具体的に教え諭す。芸のパフォーマンスからブランドの確立と維持までの戦略が、本書には盛り込まれているのだ。

これには本書が成立した時代背景が深くかかわっている。世阿弥は、室町幕府の3代將軍、足利義満の庇護を受け、従来の申樂を發展させて能とし、大成した。(a) 40歳を過ぎ、支持者の義満が亡くなった後は、時の権力を味方に付けるための方策を練る必要に迫られる。いくらよい演技をしても認められなければおしまいだ、という冷徹な論理が、本書の終盤に貫かれている。

こうした場合の状況判断について、世阿弥は「時分にも恐るべし」と記す。(b)、時機もしくは時の運というものが非常に大切だ、と説くのだ。

(c)、時の運が上昇し發展している場合には、得意な演目を派手に披露するのがよい。反対に、時の運が下降しているときには、あまり目立たない演目で控えめに見せることをスイショウする。

ビジネスの世界で言えば、好況と不況に当たるだろうか。(d)、時の運の上昇期と下降期は、人間の力ではいかんともしがたいものである、と彼は断言する。(e)、時の運に素直に従いながら日常を送り、いざれチャンスが巡ってきたときに時流に乗ればよいという発想が生まれる。

本書には盛んに「勝負」という言葉が出てくる。能楽という一見すると優美な芸術も、実は勝負の世界のもの。能が社会で正当に評価され、長い間維持されるためには、兵法に劣らぬ戦略と戦術が必要だったのである。

こうした話は、学問や科学の世界でもまったく同じだ。自分は優れた研究をしている、といくら主張しても、世間で理解されなければ研究費もポストも

付かない。私は『風姿花伝』を教授になってからあらためて読み返したのだが、世阿弥が本書で主張していることは人ごとにはまったく思えなかった。

世阿弥は本書の原型を、いちばん脂あぶらが乗った38歳の頃に書き上げた。その後も20年かけて書き直し、還暦近くで完成した。(エ 彼にとつて『風姿花伝』とは、仕事と人生に関する手堅い戦略論でもあったのである。)

(鎌田浩毅『座右の古典』による。)

問1 傍線部①～⑤に当たる漢字を含むものを、次の各群の①～⑤の中から、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は ～ 。

① セン|レン

① レン|ショウ記録の更新。

② レン|ラクサキを教える。

③ レン|カバンのスマホ。

④ 心身をレン|マする。

⑤ レン|アイ小説を読みふける。

② コン|セツ

① コン|イな間柄。

② 意識がコン|ダクする。

③ コン|ジョウの空。

④ コン|ジョウの別れ。

⑤ 見え透いたコン|タン。

③ ケン|キヨ

① 群雄カツ|キヨの戦国時代。

② キヨ|コク一致で災害復旧を行う。

③ キヨ|セイを張る。

④ 会社を息子にまかせてイン|キヨする。

⑤ 大臣のキヨ|シュウが注目される。

④ ヒミツリ 4

① 必修科目をリシユウする。

② ノウリに浮かぶ。

③ 戦線をリダツする。

④ リクツをこねる。

⑤ リンクが下がる。

⑤ スイシヨウ 5

① 残高をシヨウカイする。

② セッシヨウな仕打ち。

③ ゆきすぎたシヨウエネ。

④ 気の短いシヨウブン。

⑤ ホウシヨウキンを受け取る。

問2 傍線部(ア)「学びの精神の元は、まさに真似る精神なのである」とはどういうことか。説明として最も適当なものを次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は 6。

① 目に見える全てをまねすれば、物事の本質を身につけることができる。

② よいものの優れた点を素直に、徹底的にまねることから学びが始まる。

③ よいものを徹底的にまねることは、学びの精神を知ることにつながる。

④ 学ぶ精神があれば、まねることを通じてあらゆるものの本質を学べる。

⑤ 優れていることを学びたいという気持ちの底には、まねる精神がある。

問3 空欄 に入れるのに最も適当な語を次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は 7。

① オースリテイ

② バイタリテイ

③ クオリテイ

④ リアリテイ

⑤ オリジナリテイ

問4 傍線部(イ)「一子相伝という戦略的な概念」とあるが、なぜ一子相伝が戦略となりうるのか。その理由として最も適当なものを次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は 。

- ① 芸の秘伝をあえて広めないことが芸の神秘性を増し、時の権力者の関心をひきつけることができるから。
- ② 芸の秘伝を自分の子どもたちに伝えていくことが、芸をすばらしいものに革新していくことになるから。
- ③ 芸の秘伝を維持していくための策を一人の弟子と練り上げることで、芸のすばらしい精神を守れるから。
- ④ 芸の秘伝を周知せず、自分の子の一人にだけ伝えることが、芸のすばらしさを保つことにつながるから。
- ⑤ 芸の秘伝を身内以外の人に知られないことが、芸を時の運に振り回されないようにする秘策であるから。

問5 傍線部(ウ)「この考え方」とはどのような考えか。最も適当なものを次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は 。

- ① 客観的に自分自身を見つめるという考え方。
- ② 大事なものを秘密にして守るという考え方。
- ③ 戦略的視点を持ち続けていくという考え方。
- ④ 徹底的にまねして学び続けるという考え方。
- ⑤ 合理的にものごとを思考するという考え方。

問6 空欄(a)～(e)に入れるのに最も適当な語句を、次の①～⑧の中から一つずつ選べ。

解答番号は、a 、b 、c 、d 、e 。

- ① しかも
- ② ところで
- ③ たとえば
- ④ あるいは
- ⑤ すなわち
- ⑥ なぜなら
- ⑦ したがって
- ⑧ しかし

問7 傍線部(エ)「彼にとって『風姿花伝』とは、仕事と人生に関する手堅い戦略でもあったのである」とあるが、なぜ世阿弥に戦略が必要だったのか。本文の内容に即して40字以上50字以内で書きなさい(ただし、句読点を含む)。解答は記述用解答用紙。

第2問 次の文章を読んで、以下の問い(問1～5)に答えよ。

侍の美濃部伊織には癩癩持ちという弱点があったが、伊織にほれ込んだ「るん」を妻にした後は、その癩癩も影を潜め、二人は幸福であった。その四年後、伊織は役職上、るんと離れ、京都の二条城に詰めることになった。

伊織は、丁度妊娠して臨月になっているるんを江戸に残して、明和八年四月に京都へ立った。

伊織は京都でその年の夏を無事に勤めたが、秋風の立ち初める頃、或る日寺町通の刀剣商の店で、質流れだという好い古刀を見出した。兼て好い刀が腰欲しいと心掛けていたので、それを買いたく思ったが、代金百五十両というのが、伊織の身に取っては容易ならぬ大金であった。

伊織は万一の時の用心に、いつも百両の金を胴巻に入れて体に付けていた。それを出すのは惜しくはない。しかし跡五十両の才覚が出来ない。そこで百五十両は高くはないと思いつながら、商人にいろいろ説いて、とうとう百三十両までに負けてもらうことにして、買い取る約束をした。三十両は借財をする積なのである。

伊織が金を借りた人は(注1)相番の下島甚右衛門というものである。平生親しくはせぬが、(a)工面の好いということを知っていた。そこでこの下島に三十両借りて刀を手に入れ、拵えを直しに遣った。

そのうち刀が出来て来たので、伊織はひどく嬉しく思って、(b)あたかも好し八月十五夜に、親しい友達柳原小兵衛ら二、三人を招いて、刀の披露かたがた馳走をした。友だちは皆刀を褒めた。酒酣になった頃、ふと下島がその席へ来合せた。めつたに来ぬ人なので、伊織は金の催促に来たのではないかと、まず不快に思った。しかし金を借りた義理があるので、杯をさして団欒に入れた。

暫く話をしているうちに、下島の詞に何となく(c)角があるのに、一同気が附いた。下島は金の催促に来たのではないが、自分の用立てた金で買った刀の披露をするのに自分を招かぬのを不平に思って、わざと酒宴の最中に尋ねて来たのである。

下島は二言三言伊織と言いつ合っているうちに、とうとうこういう事を言った。「刀は御奉公のために大切な品だから、(e)随分借財をして買っても好かるう。しかしそれに結構な拵えをするのは贅沢だ。その上借財のある身分で刀の披露をしたり、月見をしたりするのは(d)不心得だ」といった。

(イ)この詞の意味よりも、下島の冷笑を帯びた語気が、いかにも聞き苦しかったので、俯向いて聞いていた伊織は勿論、一座の友達が皆不快に思った。伊織は顔を挙げていった。「只今のお詞は確に承った。その御返事はいずれ恩借の金子を持参した上で、改めて申上げる。親しい間柄といいながら、今晚

わざわざ請待した客の手前がある。どうぞこの席はこれでお立下されい」といった。

下島は面色が変った。「そうか。返れというなら返る。」こう言い放つて立ちしなに、下島は自分の前に据えてあった膳を蹴返した。

「これは」といって、伊織は傍にあつた刀を取つて立った。伊織の面色はこの時変つていた。

伊織と下島とが向き合つて立つて、二人が目と目を見合せた時、下島が一言「たわけ」と叫んだ。その声と共に、伊織の手に白刃が閃いて、下島は額を一刀切られた。

下島は切られながら刀を抜いたが、伊織に刃向うかと思うと、そうではなく、白刃を提げたまま、身を翻して玄關へ逃げた。

伊織が続いて出ると、脇差を抜いた下島の仲間が起ち塞がった。「退け」と叫んだ伊織の横に払った刀に仲間は腕を切られて後へ引いた。

その隙に下島との間に距離が生じたので、伊織が一飛に追ひ縋ろうとした時、跡から附いてきた柳原小兵衛が、「逃げるなら逃がせい」といいつつ、背後からしつかり抱き締めた。相手が死なずに済んだなら、伊織の罪が軽減せられるだろうと思つたからである。

伊織は刀を柳原にわたして、しおしおと座に返つた。そして黙つて俯向いた。

柳原は伊織の向いにすわつていた。「今晚の事は己を始、一同が見ていた。いかにも勘弁出来ぬといえばそれまでだ。しかし先へ刀を抜いた所存を、一応聞いておきたい」といった。

伊織は目に涙を浮べて暫く答えずにいたが、口を開いて一首の歌を誦した。

「いまさらに何とか云はむ黒髪の

みだれ心はもとすゑもなし」

下島は額の創が存外重くて、二、三日立つて死んだ。伊織は江戸へ護送せられて取調を受けた。判決は「心得違の廉を以て、知行召放され、有馬佐兵衛佐允純へ永の御預仰付らる」ということであつた。

(森鷗外『じいさんばあさん』による。一部改変。)

(注) 1 相番——当番を一緒にする人。

2 仲間——主人に仕え、身の回りの雑事を行う下級の武士。

3 もとすゑ——本と末。根本と末梢。

問1 二重傍線部(a)(b)(c)(d)の本文中の意味として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。

解答番号は 15 ～ 18。

(a) 工面 15

- ① 度量
- ② 工夫
- ③ 貯蓄
- ④ 儉約
- ⑤ 金回り

(b) あたかも好し 16

- ① まるで計画したように
- ② 雲一つなく晴れ渡った
- ③ ちょうどよいことには
- ④ よろこびに堪えず
- ⑤ 好機を逃さないで

(c) 角がある 17

- ① 隈がない
- ② 面白味がある
- ③ 抜きんでたところがある
- ④ 円やかでないところがある
- ⑤ 秘められた意味がある

(d) 不心得だ 18

- ① だらしがない
- ② わきまえがない
- ③ はしやぎすぎている
- ④ 不愉快だ
- ⑤ ばかっている

問2 傍線部(ア)「随分借財をして買っても好かろう」の意味として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 19。

- ① 可能な限り借金をして買ってもかまわないだろう。
- ② 分不相応な借金を背負いこんでも許されるだろう。
- ③ せいぜい借金していいものを買ったらいいだろう。
- ④ 決して借金をしてまで買うべきものではなからう。
- ⑤ かなり無理な借金を背負ってでも買うべきだ。

問3 傍線部(イ)「この詞の意味よりも、下島の冷笑を帯びた語気が、いかにも聞き苦しかった」とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 20。

- ① 言葉以上に、貧しさへの憐れみを含んだ下島の言葉の調子が、聞いている伊織と友達の心をかき乱した。
- ② 言葉以上に、薄く笑いながら発した下島の言葉の調子はその場に不似合いで、たいそう異様であった。
- ③ 言葉が指し示す内容そのものではなく、軽蔑を含んだ下島の言葉の調子が不愉快で、聞くに堪えなかった。
- ④ 言葉が指し示す内容そのものでなく、酒宴に招かれなかった恨みを含む下島の声色が、耳障りだった。
- ⑤ 言葉の意味するところは道理にならなっていたが、下島の漏らした笑いにはその場を凍らせる冷淡さがあつた。

問4 傍線部(ウ)「刀を抜いたが、伊織に刃向うかと思うと、そうでなく、白刃を提げたまま、身を翻して玄関へ逃げた」とあるが、ここから下島のどのような性格や心情がうかがえるか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 21。

- ① 勇気と恐怖心
- ② 闘争心とおびえ
- ③ 短慮と臆病
- ④ 自負と判断力
- ⑤ 義務感と意志の弱さ

問5 傍線部(エ)「目に涙を浮べて暫く答えずにいた」とあるが、そのときの伊織の心情はどのようなものであると考えられるか。30字以上50字以内で述べよ(ただし、句読点を含む)。解答は記述用解答用紙。

第3問 次のA～Eのことわざについて、空欄に当てはまる語を【語群】①～⑩の中から、意味を【意味】①～⑥の中から選ぶ。

解答番号は 22 ～ 31。

A	「能ある」	22	は爪を隠す」	意味	23
B	「腐っても」	24	「	意味	25
C	「26」		心あれば水心」	意味	27
D	「脱」	28	の勢い」	意味	29
E	「泣き面に」	30	「	意味	31

【語群】

- ① 鰻 ② 魚 ③ 牛 ④ 鷹 ⑤ 鯛 ⑥ 虎 ⑦ 蜂 ⑧ 兎 ⑨ 雀 ⑩ 狼

【意味】

- ① 失敗にこりてしまつて、用心し過ぎること。
② 悪いこととうえに、さらに悪いことが重なること。
③ 極めて素早い様子である、ということ。
④ 優れたものは、どのような状態でもそれなりの値打ちがある、ということ。
⑤ 相手が好意を示すならば、こちらも好意を示そう、ということ。
⑥ 実力のあるものは自慢をしない、ということ。

第4問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

ストレスは万病の元、とも言われるように、精神的なストレスから、体調を崩してしまう人が増えている。古来伝わる東洋医学で「心身一元」という言葉で表され、また「病は気から」ということわざにもある通り、健全な精神と健全な肉体は、切り離せないもののようなのだ。

「健全な精神は、健全な肉体に宿る」、この名言の意味については、さまざまな解釈がなされている。

A

最も有名な説が、ユウエナリスは風刺家であるため、この言葉には、当時のローマ市民がやたらと肉体美だけを誇り、政治に関心を持たないことに対する皮肉が込められている、とするものだ。

作家・太宰治も同じスタンスで、『正義と微笑』という作品で、主人公に次のようなセリフを言わせている。

B

果たして真意はどちらなのか、出典を当たってみよう。

この言葉がでてくるのは、ユウエナリスの『風刺詩集』第10編第356行にあるラテン語の一節で、"randum est, ut sit mens sana in corpore sano".

これが"a sound mind in a sound body"と訳されたため、「健全なる精神は健全なる身体に宿る」と誤解を呼ぶことになった。

これを正しく訳するならば、「強健な身体に健全な魂があるよう願うべきなのだ」(It is to be prayed that the mind be sound in a sound body)となる。

これだけではよくわからないが、その前段を読むと本来の文意がつかめてくる。

C

そして、「人々は間違ったことばかりを神様にお祈りしている」と嘆きながら、こう言っているのだ。

「何か願い事を神様にお祈りしたのであれば、心身ともに健康であることを祈るがよい」

D

ユウエナリスは、「健康な体にこそ、健全な精神が宿る」とも言わなかったし、「健康な体に健全な精神が宿ればいいのに！」と憤ることもなかった。

E

体も心も健康でありますように。一番重要な人類共通の願いを、ユウエナリスは述べているのだ。

(山口智司『名言の正体―大人のやり直し偉人伝』による。一部改変。)

問 空欄 A ~ E の中には、次の①~⑤のいずれかの文章が入る。最も適当なものを一つずつ選べ。

解答番号は A || 32、B || 33、C || 34、D || 35、E || 36。

- ① そもそも、ユウエナリスは「心」と「身」を切り離して考えてはいない。
- ② そのままの、「身体を鍛えれば、精神も健全なものになるのだ」という意味ではないようだ。
- ③ ユウエナリスは、富豪になったがゆえの不幸、器量が良いゆえに降りかかる災難をあげながら、「金持ちになっても、頼まれな美貌を身につけたとしても、幸せにはなれない」と主張している。
- ④ つまり、「何も欲しがらず、財産でも名誉でもなく、心も体も健やかであることだけを願いなさい」と、謙虚な姿勢をすすめる言葉なのだ。
- ⑤ 「もうスポーツが、いやになった。健全な肉体に健全な精神が宿るといふ諺ことわざがあるけれど、あれには、ギリシャ原文では、健全な肉体に、健全な精神が宿ったならば！ という願望と嘆息たんそくの意味が含まれているのだそうだ。(中略)けれども現実には、なかなかそんなにうまく行かないからなあ、というような意味らしい」